「性格悪い野郎って嫌い。」って思っている自分が、世界一性格悪い。

「面倒くさい女って苦手。」って考えている自分が宇宙一面倒くさい。でも、

そのことをしっかり理解している自分は、まだ、ましな方だろう。とか思っちゃっている自分が、やっぱり嫌い。結局、言いたいのは、今現在の私自身が、コンプレックス製の粘土で固められたみたいな人間ってだけの話だ。私は現在進行形でそんなひねくれた生活を送っている。

小学校に通っていたころから不思議だった。熱い友情とか、初恋だとかで、キラキラ、わいわい盛り上がれる同級生。運悪く、同級生と同じ話題ではしゃげるテンションの高さを、持ち合わせていなかったのだ。小二小三の頃は、「３DSとねりけしを持って○○公園に集合！」とかいう意味わかんないクラス集会なんかにも参加していた。でも、学年があがるにつれ、「自分が無理してまで同級生と仲良くなる必要はない」と思い始めた。数人の友達を除いて、あまり、というかほとんど他人と関わらなくなり、「無口キャラ」という風に定着されていった。私は気にもしなかったし、それなりに楽しい生活を送っていた。

中学校に入ってからは「さすがに無口ではやっていけんなあ」と思い、少しずつ色々な人と話すようになった。でもやっぱり中学生はというのは面倒くさいお年頃。ここ最近の中学校で、生徒は大体二種類にわけられている。明るくていつもワイワイ、世間の中心にいるような人たち。いわゆる「陽キャ」と、根暗でいつもどんより、世間の隅っこみたいな人たち。いわゆる「陰キャ」。この二大勢力が見事に分け隔てられ、そうしてクラスは成り立っている。「陽キャは上、陰キャは下。」みたいな、バカバカしいカーストランクたるものも形成されている。二年三年の時のクラスメートに、とんでもない陰口大魔王がいた。友達から、全く関わりのないクラスメートまで、ありとあらゆる人間の陰口を言っていた。自分の地位を守るため、何かにつけては、感心するほどに暴言を吐いていた。そんなクラスに二年間居た結果、私は、「陰口言うなら、もっと上手くやれよ。」とか思い始めていた。しかし、そのような面倒くさい人たちに目をつけられたくないと、必死で周りのご機嫌を伺っていた自分は、やっぱり世界一性格が悪いと言える。

これが今までの私の人生だ。どうも小さい頃にひねくれてしまうと、その性格が一生ついてまわるらしい。

余談ですが、中学時代に周りの人間を見ていて、思ったことがあります。場合によっては、皆さんの反感を買うかもしれません。それは、クリスマスを独りさみしく過ごす、俗にいう「クリぼっち」についてです。「俺まぢ今年クりぼっちなんだけどぉ」みたいなことを、わざわざ公で言える人は、たいていぼっちじゃない。「クリスマスにぼっちだから何？そんなに一人は嫌なの？あぁ、そう、かわいそうに。」ってだけ。そんだけ。ひねくれ者で申し訳ありません。きっと心のどこかでそういう人たちを羨んでいるだけです。どうでしょうか。皆さんの中に「石井はひねくれ者」という印象はあったでしょうか。むしろ「ひねくれ者の石井」でもいいから、私の存在を認識しておらえると光栄です。ちなみに、ひねくれているからどうのこうのとか、これからどう改善していくべきか、とか、私はまじめではないので、そのような良い作文の終わり方はできないのです。愛農で三年間過ごしてみて、どんな人間に成長しているか、自分でも確かめてみたいし、周りにも気にしてほしい。なので最初の意見発表はこのテーマで書きました。っていうのはウソです。完全に後づけです。私は極力正直者として生きたいのです。こんな意味分からない話をしてしまいましたが、相変わらず悪趣味な私ですが、全部ひっくるめると、そんな自分が割と好きです。